

# D1 Trend Method Style Vol.06

【 D1トレンドメソッドスタイル Vol.06 】

## 第6章 実践テクニック Part 2

# 第6章 実践テクニク Part 2

## i) 勝率を上げる追加エントリー判断基準解説①

### ■はじめに

確認になりますが、基本のエントリー判断とは、EMA(5)を進行方向（トレードで狙いたいと思っている向き）にローソク足実線で抜けた事実を、『反転した』と判断することを基準としています。しかし、ここでは、その基準を【第一基準】と位置付けた場合の【**第二基準**】となる追加のエントリー判断テクニックを紹介します。

-----  
« (再確認) エントリー判断基本テクニクとは? »

BB±2σにタッチ後に狙う方向（トレードで狙いたいと思っている向き）へ、EMA(5)をローソク足実線が抜けた事実を確認すること。

#### ・買いエントリー判断

→ローソク足が、EMA(5)を上向きに実線抜け確定を確認する。

#### ・売りエントリー判断

→ローソク足が、EMA(5)を下向きに実線抜け確定を確認する。

以上の事実を確認することでのエントリー判断が、【第一基準】のエントリー判断基本テクニクです。

### ○【第二基準】の必要性

【第二基準】となるエントリー判断テクニックでは、【Stochastic Oscillator】というインジケータを参考にして判断します。

この【第二基準】は、【Stochastic Oscillator】のインジケータを使うことで、【第一基準】で判断していた精度を【第二基準】を加えたダブルチェックで精度上げることが目的です。その結果、【第一基準】で出ていた損切り（損失）を減らすことができます。

【第一基準】で損切りになっていた原因とは、【押し目が浅いポイントでの早めの反転判断】です。そこで、今回の【第二基準】を使うことで、これまでのエントリー判断ポイントに関して更なる厳選を行うことが出来るようになります。その結果として、より勝率の高いポイントでのエントリー判断を可能にします。

# 第6章 実践テクニック Part 2

## i) 勝率を上げる追加エントリー判断基準解説②

### ■ 【第二基準】インジケータ詳細紹介

【第二基準】となるエントリー判断テクニックで使用するインジケータは、**【Stochastic Oscillator】**です。

この**【Stochastic Oscillator】**では、基本で設定されているパラメータ数値ではなく、我々の独自の検証と思考錯誤の結果導き出したオリジナルの数値を使ってもらいます。次ページに記載している数値を参考に右図に示す MT5 チャート上におけるインジケータ設定画面表示時に数値変更を行ってください。

最後に、変更すべきポイントではないのですが、線の色や太さに関しては、人によって「見えやすい」、「見えにくい」とあると思います。なので、標準に設定してある色や太さに関しては、自由に自分に合ったものに変更してもらって大丈夫です。手法などには一切関係がありません。【パラメータ】や【レベル】などの設定画面で変更出来ます。

**以下の画面が【Stochastic Oscillator】のインジケータ設定画面**

**【上記表示の設定画面の表示方法】**

- ① 図左上【ナビゲータ】を表示させる。
- ② 【ナビゲータ】内の【オシレーター】を開いて**【Stochastic Oscillator】**を確認する。
- ③ **【Stochastic Oscillator】**部分で、【ダブルクリック】か【ドラック&ドロップ】を行う。

以上の手順で、上記設定画面が表示されます。

# 第6章 実践テクニック Part 2

## i) 勝率を上げる追加エントリー判断基準解説③

### ■ 【Stochastic Oscillator】パラメータ変更数値

#### « パラメータ »

- ・%K 期間 . . . . .【15】
- ・%D 期間 . . . . .【3】
- ・スローイング . . . . .【4】
- ・適用価格帯 . . . . .【close/close】
- ・移動平均の種別 . . . . .【Simple】

※線の色と線の種類は自由

#### « レベル »

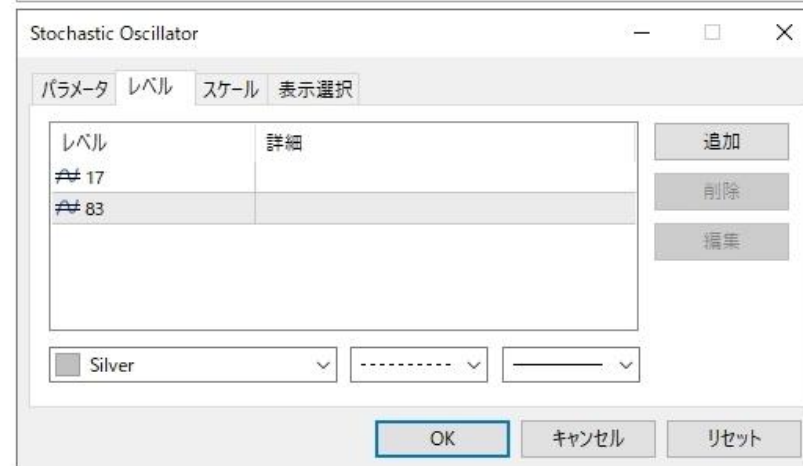
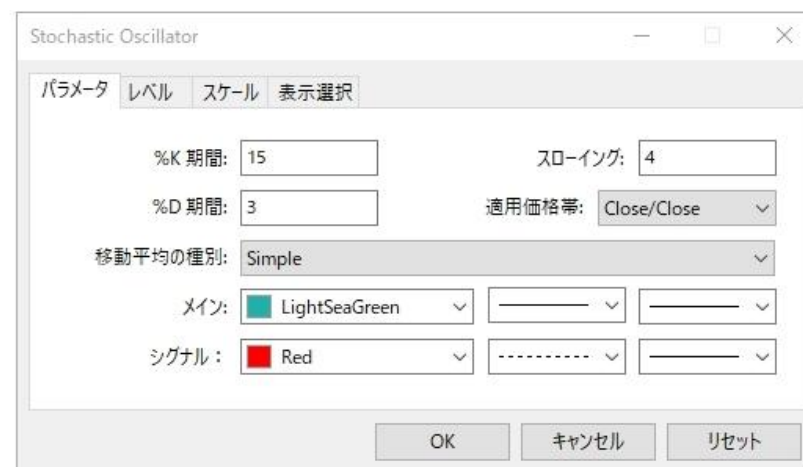
- ・レベル : 【17】
- ・レベル : 【83】

#### « スケール »

- ・変更なし OK。

#### « 表示選択 »

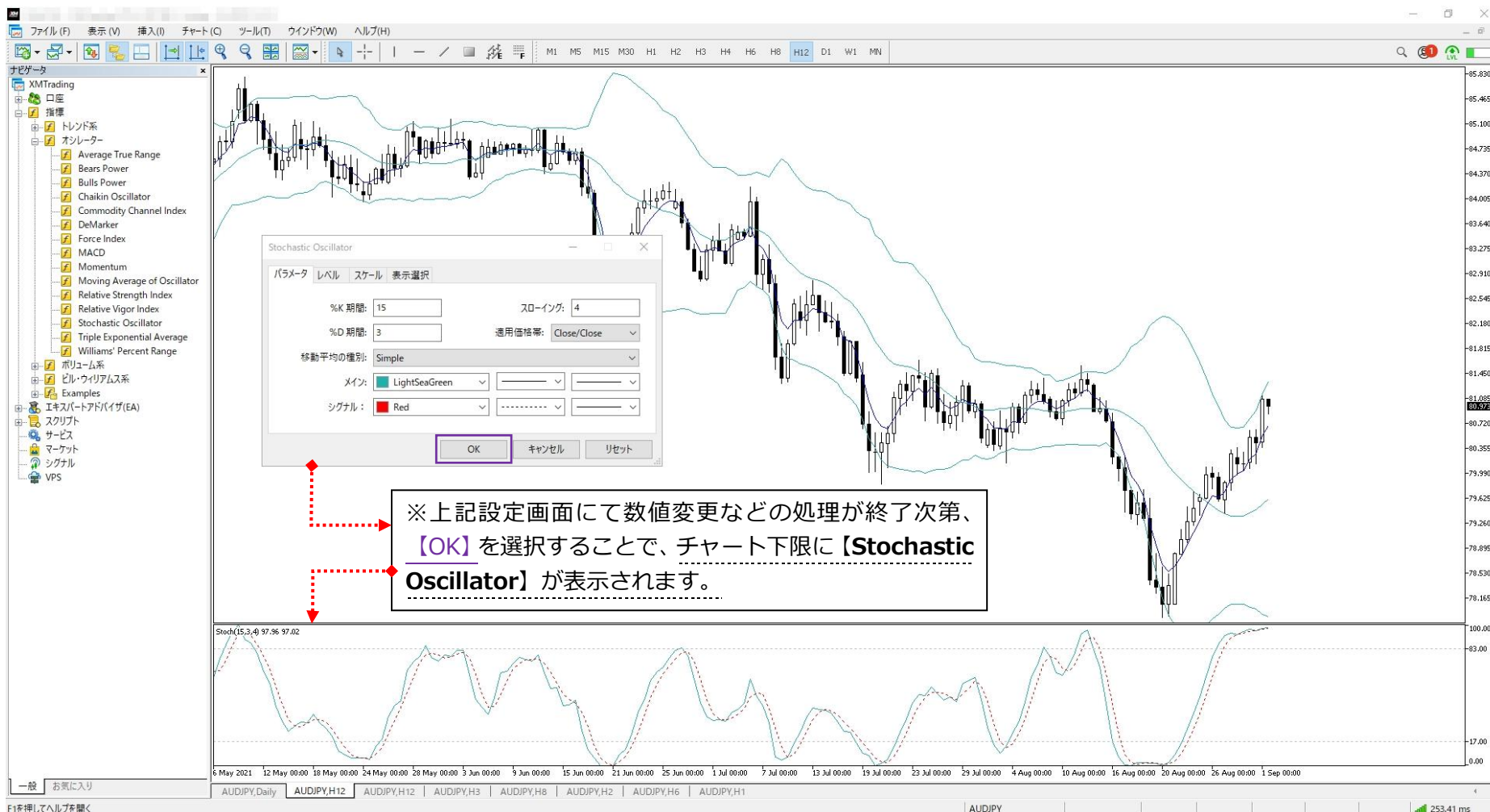
- ・変更なし OK。



# 第6章 実践テクニック Part 2

## i) 勝率を上げる追加エントリー判断基準解説④

### ■インジケータ【Stochastic Oscillator】表示後チャートイメージ図



# 第6章 実践テクニック Part 2

## ii) エントリー判断基準【第二基準】条件①

### ■ エントリー判断基準【第二基準】の判断条件解説

ここからは【第二基準】とは、どのように 【Stochastic Oscillator】 を使って、エントリー判断を行って実践テクニックとなっているのかを解説をしていきます。

#### ○前条件（※再確認）

【第二基準】を使って行うエントリー判断の通貨は、当然、D1（日チャート）のPO（パーフェクトオーダー）となっている通貨を選択していることが前条件となります。

【第二基準】を使って行うテクニックのポイントは 【押し目】判断 と 【トレード可否】判断 の2つです。そして、その中に2つずつの確認ポイントがあるので、合計4つのポイントを抑えることで、この【第二基準】のテクニックを使いこなすことができます。

では、これから4つのポイントをそれぞれ解説していこうと思います。

■ AUDJPY : 日足チャート (2021.06.16~09.01) [MT5]



○前条件（※再確認）  
枠で囲んだ D1（日足）チャートにおける PO（パーフェクトオーダー）部分が、【第二基準】を使うことが出来るポイントです。

# 第6章 実践テクニック Part 2

## ii) エントリー判断基準【第二基準】条件①

### ■【押し目】判断（トレード判断する時間チャートを選択）

#### ①BB±2σ付近に到達している。

→BB±2σに到達（タッチ）しているかどうかに関しては、どちらでも大丈夫です。付近に到達していることが重要です。しかし、BB±2σに到達している方が、スムーズに動くことが多いです。

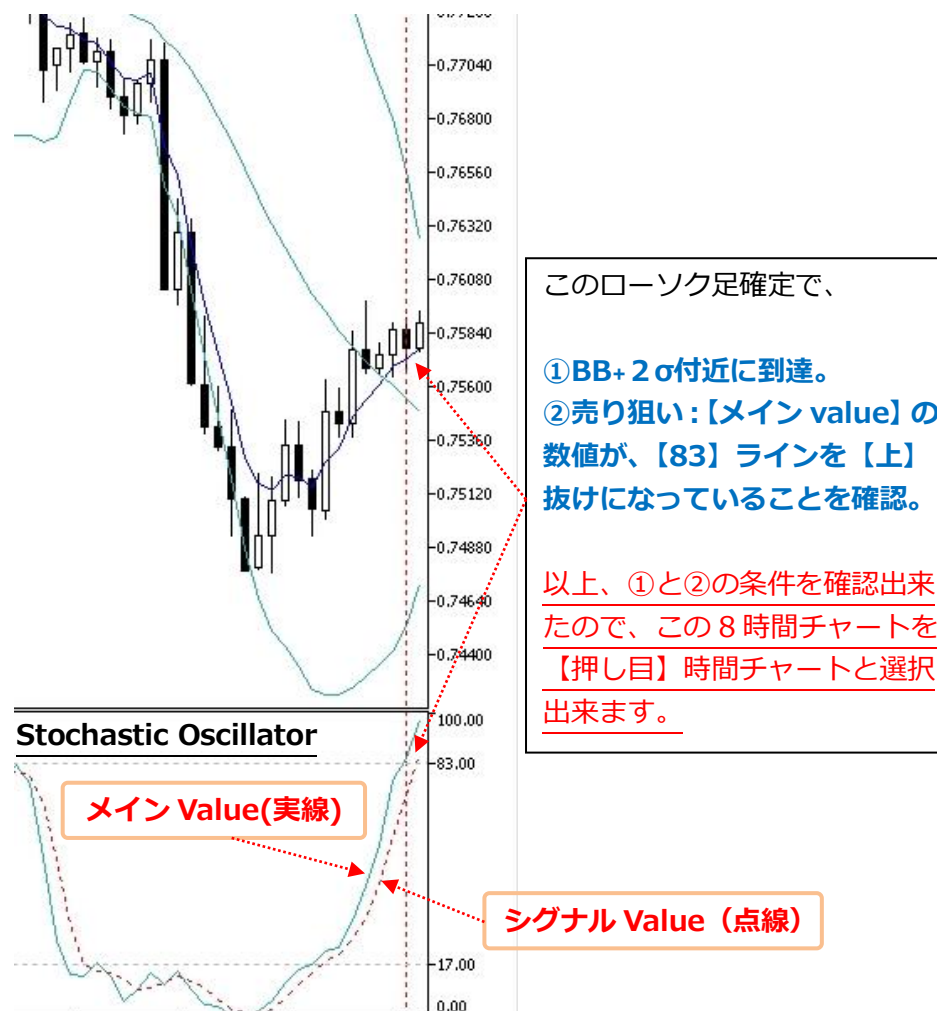
#### ②【Stochastic Oscillator】における【メイン value】の数値が、買い狙いなら【17以下】、売り狙いなら【83以上】になっている。

- ・買い狙いなら 【17】ラインを【下】へ抜ける。
- ・売り狙いなら 【83】ラインを【上】へ抜ける。

→この【17】と【83】のラインを外側へ抜けていることは重要なポイントです。抜けていない時間チャートは選択肢には入りません。従って、条件が合う時間チャートを確認出来るまで、様々な時間チャートを確認してください。

以上、①と②の条件に合う【時間チャート】を選択します。

■AUDUSD：8時間チャート（2021.06.11～06.25）[MT5]





# 第6章 実践テクニック Part 2

## ii) エントリー判断基準【第二基準】条件②

### ■ 【トレード可否】判断（選択した時間チャートで可否判断）

③ 【MA（移動平均線）の向き】が水平または、水平に準ずる方向を向いている（肯定も可）事を確認する。

→この条件は、【第二基準】において、かなり重要なポイントです。なぜなら MA（移動平均線）が肯定・水平ではなく、否定になっている場合は、トレード不可という判断となります。 従って、選択している時間チャートによっては、次の条件確認に関して、早くても次の日にならないと判断出来なくなる場合も出てきます。

アドバイスになりますが、MA（移動平均線）の向きは、常にきれいな状態で見分けることが出来るわけではありません。なので、最初は悩むことが多くなると思います。しかし、繰り返し練習すれば、MA（移動平均線）の向きの見極めも出来るようになるので、安心して練習してください。

④ 【Stochastic Oscillator】の数値が、買い狙いなら【17以上】、売り狙いなら【83以下】になっている。

- ・ 買い狙いなら【17】ラインを【上】へ抜ける。
- ・ 売り狙いなら【83】ラインを【下】へ抜ける。

→この条件は、【押し目】判断での条件を継続した流れの中での判断になります。具体的に言うと、

- ・ 買い狙いなら、【17】ラインを【下】へ抜けた後、【上】へ抜ける。
- ・ 売り狙いなら、【83】ラインを【上】へ抜けた後、【下】へ抜ける。

ということです。従って、再度ラインを逆に抜けた事実が反転のサインとなります。

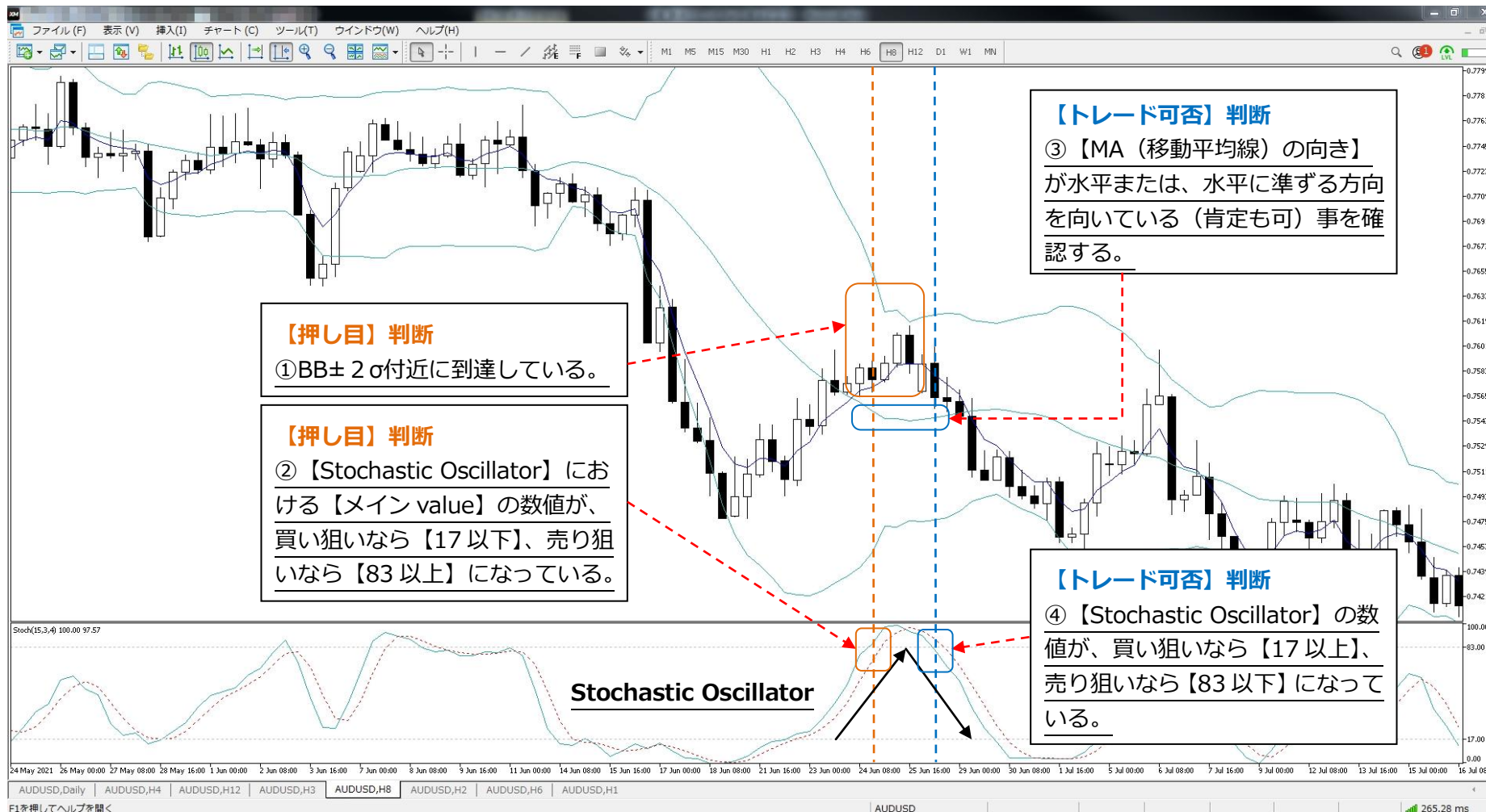
以上、③と④の条件を満たせばトレード可能と判断（エントリー可）。しかし、条件を満たしていない場合、押し目が浅いと判断するので、トレード不可（エントリー否）と判断し、次の押し目待ち。



# 第6章 実践テクニック Part 2

## ii) エントリー判断基準【第二基準】条件③

### ■【押し目】判断と【トレード可否】判断の4つのポイント/AUDUSD : 8時間チャート (2021.05.24~07.16) [MT5]



# 第6章 実践テクニック Part 2

## ii) エントリー判断基準【第二基準】条件④

### ■ 損切り確定と利益確定のライン設定方法

前項までに【押し目判断】と【トレード可否判断】といった、トレードを見極めるためのポイントを解説しましたが、ここからは、始めたトレードの終わらせ方（損切りラインと利益確定ラインの設定方法）の解説を行っていきます。

とは言え、この【D1 Trend Method Style】での損切りラインと利益確定ラインの設定方法は、本編で解説したものと同一方法となります。ここでは、再確認となる解説となります。

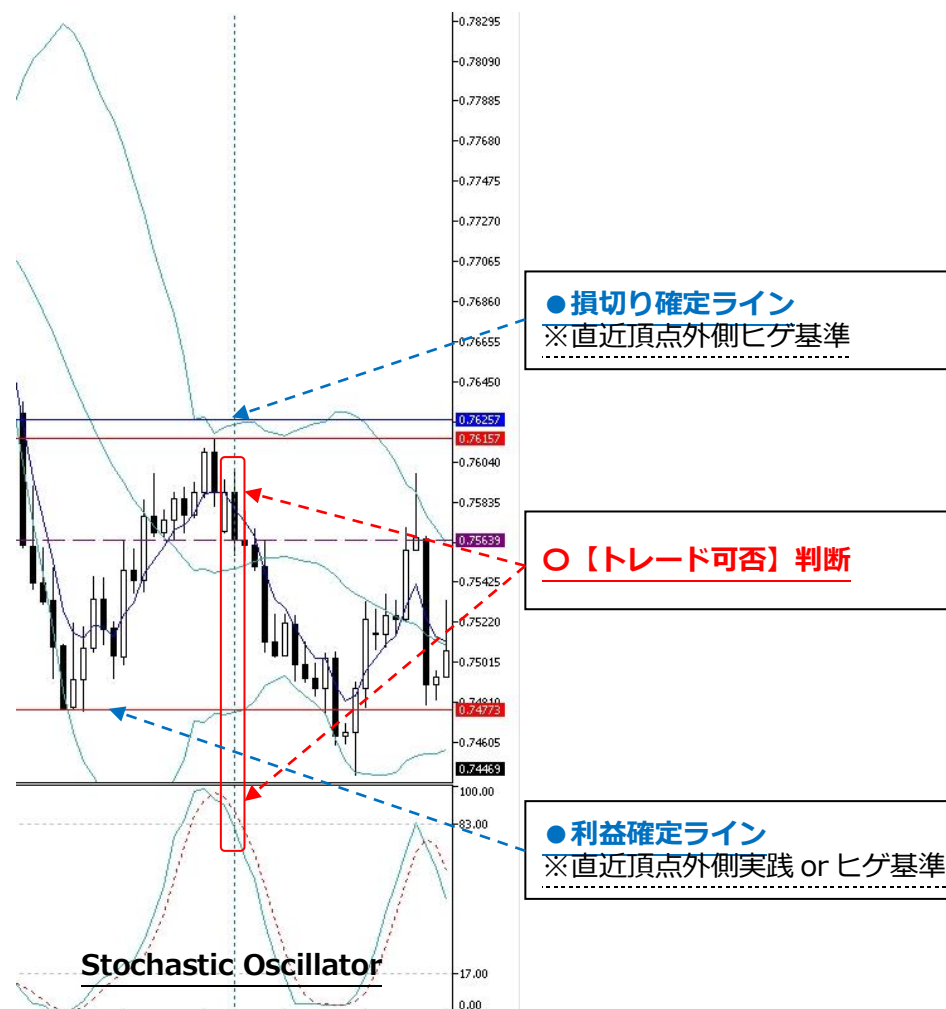
#### ● 損切り確定ライン

【トレード可否】判断をした直近外側頂点ヒゲを基準にチャートに対して“視覚的余裕のある空間”を持った幅に設定するライン。

#### ● 利益確定ライン

【トレード可否】判断をした直近外側頂点に対して、向かいの  $BB \pm 2\sigma$  付近にある直近頂点実線または、ヒゲに設定するライン。

■ AUDUSD : 8 時間チャート (2021.06.17~07.07) [MT5]



# 第6章 実践テクニック Part 2

## iii) エントリー判断基準【第二基準】の使い方

### ■【第二基準】を使った戦略①

このエントリー判断【第二基準】のトレードでの生かし方、トレード戦略を（レクチャー）（アドバイス）解説していきます。とはいえ、考え方は【第一基準】でもある【EMA（5）ローソク足実線抜け】と変わりません。あくまで、次の2つの思考がメインです。

#### （1）条件に合っていない場合【まだエントリーするには早い】

- （i）少し待てば、エントリー出来る可能性がある。
- （ii）エントリー可能となるまでにどれだけ時間がかかるかわからない。

という2つの判断が出来ます。それぞれの判断は以下のようになります。

（i）の場合は、最終条件待ちという言うことになるので、確定予想時間を調べて待つことが出来ます。

（ii）の場合は、待つだけ無駄なので、次の通貨、別の通貨を見に行くことが賢明です。

### ■【第二基準】を使った戦略②

#### （2）条件に合っている場合【エントリーが出来る】

- （i）直前に条件が確定している上に、利と損のバランスが合うので、即エントリーと判断してトレードを実行する。
- （ii）ローソク足数本前に条件を満たしているのに、エントリー可能であるが、利と損のバランスが合わない様子を見る。

という2つの判断が出来ます。それぞれの判断は以下のようになります。

（i）の場合は、ただただエントリーしてトレードを開始するだけです。

（ii）の場合は、押し目条件が良いところに、【指値を指す】か【その通貨を諦めて次の通貨を探しに行く】の2つの選択をすることが出来ます。

この様に、【第一基準】確認後、【第二基準】をダブルチェックすることでトレード勝率を上げることに繋がります。

# 第6章 実践テクニック Part 2

## iv) 【第二基準】の知っておくべき知識と注意事項

### ■インジケータの限界

FXチャートにおける波の動きに関しては、それぞれのパラメータ数値に到達せずに反転する場合も多々あります。それは、完璧のないFXとして『今回のチャンスには縁がなかった』として割り切ってください。その瞬間、その通貨、その時間チャートに固執しなくても時間が経過すれば、次のチャンスは必ず訪れますので、気にせずスルーしてください。

### ■【第二基準】の使い方

チャート状況を見続けていくと、【第一基準】では、条件確認が出来ているはずなのに【第二基準】では、まだ条件確認が出来ていないことがあります。このような場合、【第二基準】での条件確認の判断を優先したトレード判断の方が損切り（損失）になる確率が低くなります。従って、【第二基準】の条件確認が出来ない場合に【待つ】ことを選択することで、損切り（損失）が減ることになるので、勝率が自然と上がって、結果、資産が増えていくこととなります。

※条件の優先順位は、【第二基準】 > 【第一基準】

### ■トレードチャンスの減少

当たり前の話になりますが、確認すべき条件が増えるということは、それだけトレードチャンスは減ることになります。なので、トレードが減ってしまうことを懸念される方は使わない方が良いかもしれません。しかし、FXで行うトレード理由とは、トレードをすることではなく、お金を増やすことですので、多少トレードチャンスが減ってもこのテクニックを使っていくことを推奨します。

しかし、トレードチャンスが減ると言いましたが、そんな状況になるのは、確認する通貨が少ない場合です。この手法では、確認すべき通貨総数は、11通貨以上を推奨しているので、たとえその日にトレードチャンスがなくても、次の日、若しくは、その次の日には見つけることが出来ると思います。しかし、それでも、見つけることが出来ないという方は、チャンスを目の前にして、トレードをせずに、きれいなトレードチャンスを求めているのではないのかと推測できるので、その問題は、また違う問題になりますので、ここは別のテキストで、解説したいと思います。